

名蔵アンバル

(なぐらあんばる)

位置：北緯24度23分、東経124度8分／標高：0m／面積：157ha／湿地のタイプ：河口干潟、マングローブ林／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別地域、国立公園特別地域／所在地：沖縄県石垣市／登録：2005年11月／国際登録基準：1、2、3、4、7

湿地のタイプ：河口干潟、マングローブ林



干潟に広がるマングローブ林



東から見た名蔵アンバル

湿地の概要：

南北3000kmにおよぶ日本列島の南西端に位置する八重山諸島。その中心が石垣島である。沖縄本島から南西へさらに400km、北緯24度、東経124度に位置する。面積2万2200ヘクタール、人口約4万8000人の島である。年間の平均気温は24℃。気温の年較差の小さい、亜熱帯気候の島である。

名蔵アンバルは、石垣島の西岸、名蔵湾に面した名蔵川河口部の、東西1.5km、南北2kmほどの干潟である。亜熱帯地域に見られる典型的な湿地である干潟、マングローブ林、海浜および海岸林などで構成される、多様な自然環境がひとまとまりになった、日本では貴重なタイプの湿地である。

海に開けた窪地状の地形に泥質土壌が堆積し、海岸部に砂嘴が形成し、全体として浅いラグーンとなっている。

マングローブと生物多様性：

日本でマングローブが生育するのは限られた地域である。名蔵アンバルはその代表的な存在で、オヒルギ、ヒルギモドキ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシなど、支柱根や呼吸根をもったヒルギ科のマングローブ林を見ることができる。

干潟には、ゴカイやアナジャコなど、さまざまな底生生物、稚魚、甲殻類が生息している。とくにエビ・カニ類は豊富



ミナミトビハゼ



オキナワハクセンシオマネキ

で、イシガキヌマエビ、コツノヌマエビ、ヤエヤママガニなど、この地域固有の希少種も少なくない。マングローブヌマエビの北限でもある。

コメツキガニ、アシハラガニ、シオマネキなど、これらのカニの生態をユーモラスに擬人化した民謡「綱張ぬ目高蟹(みだが一ま)ゆんた」が、地元の人々に歌われている。

渡り鳥の中継地：

こうした豊富な餌と安全な環境のおかげで名蔵アンバルは、セイタカシギ、アカアシシギ、クロツラヘラサギなどシギ・チドリ類をはじめ、水鳥の渡りの重要な中継地および越冬地になっている。また八重山諸島を北限とする猛禽類のカムリワシ、リュウキュウコノハズクなどの



カムリワシ

森林性鳥類の生息の場にもなっている。**【カムリワシ】**全長55cm。ノスリほどの猛禽類。インドから東南アジア、台湾、琉球諸島南部の熱帯、亜熱帯に分布する。日本では西表島と石垣島にだけ留鳥として生息。主にヘビ類を餌にするが、アンバルでは豊富なカニ類も食べている。アンバルの生態系の頂点に立つ存在である。

●関係自治体

石垣市役所 Tel: 0980-82-9911

